

# つながりの向こうへ、

## 研究集会趣旨

様々な研究・実践で「つながり」がキーワードになりつつあります。しかし、私達は何のためにつながるのでしょうか。そして、つながった先に何が生まれているのでしょうか。

本研究集会では、堀口佐知子氏（テンブル大学）をお招きし、医療者と人類学者がつながる実践についてお話しいたします。そして、堀口氏の実践を参考に、「教科教育×言語教育×人類学ワークショップ」と題した、分野を超えたつながりを生み出す実践を実際に行います。ワークショップでは、教科教育および言語教育の実践者達が出した自らの実践に関する疑問（問い）を、教科教育・言語教育・人類学の視点からそれぞれ考察・コメントします。そして、異なる領域の専門家がつながることによって何が生まれるのか参加者と考えたいと思います。

## 「教科教育×言語教育×人類学ワークショップで扱う事例

### 初等教育における教科教育者「間」の相互行為によるobuchenie（教授・学習）の可能性

話題提供者 岩坂泰子（広島大学）・横田和子・佐藤仁美（目白大学）

「国語」（横田和子）「外国語」（岩坂泰子）「美術」（佐藤仁美）の研究者それぞれが抱える葛藤の軌跡を提供することを通し参加者のオープンな議論を望みたい。

国語、外国語教育における研究発表では、言語で言えない気持ちや感情の表現手段としての芸術活動の可能性について、実践の方法や分析結果の一般化（教育活動の一回性への信頼性）に対する非生産的な指摘に終始する傾向がある。一方、美術教育においても、美術表現には正解はないと言いながら、昔ながらの美術史的知識や偏った技術偏重が教師自身の見方、感じ方を狭めてしまい、児童・生徒へ無意識のうちに狭い見方・感じ方を強要する危険性がある（モヤモヤ）。我々3人はもともと日本国際理解教育学会の特定課題である難民問題を遠いどこかで起こっている自分とは関係のない他人事ではなく当事者としての関わりを持つとすることでアートの手法を用いた実践研究を行う中で交流を深めてきた。その中で、初等教育に関わる我々3人は教科間のゴールや教科の性質の異なりからくる「常識」の違いを乗り越えてホリスティックな学びを構築するための手立てや学習（発達）観についての葛藤（モヤモヤ）を共有したいと考えている。

コメンテーター 堀口佐知子氏（テンブル大学）・後藤賢次郎（山梨大学）

参加者同士の「つながり」を生み出す企画として、京都大学の「100人論文」企画（[http://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/2017/12/h29\\_100nin/](http://www.cpier.kyoto-u.ac.jp/2017/12/h29_100nin/)）を参考にした、

「つながり∞プロジェクト」を行います。こちらは任意での参加となります。みなさまぜひご参加ください。

## つながり∞プロジェクトの流れ

参加申込時に、以下の3つのお題にお答えいただけます。

- 「私の研究・実践はこんな感じです」他分野でもわかるように簡単に説明
- 「こんなコラボができれば嬉しいです」目標や希望、困っていることなど
- 「私、こんなことができます」提供できる知やスキルなど

## 研究集会 in 山梨

3つのお題は、会場に名前を伏せた状態で掲示されます。参加者は匿名で付箋にコメントを書き、貼り付けます。分野や立場を超えた自由な交流を促します。

研究集会終了後、参加者のみが閲覧できるオンライン掲示板を作成し、参加者間のさらなるつながりを促します。



開催日： 2019年8月24日（土）・25日（日）

会場： 山梨大学 大村智記念学術館

山梨県甲府市武田4-4-37

参加費： 2,000円（会員及び山梨県内在住・在勤、もしくは県内で活動している方）  
4,000円（非会員）

## 2019年8月24日（土）

- 9:30 受付
- 10:00 趣旨説明
- 10:10 口頭発表①  
**「つながる」とはということか—言語文化教育におけるつながりの意味—**  
細川英雄（言語文化教育研究所八ヶ岳アカデミア）
- 10:50 口頭発表②  
**日本語教育研究において「対話」はどのように論じられてきたか—日本語教育としての対話のあり方—**  
古屋憲章（山梨学院大学）
- 11:30 口頭発表③  
**多様な日本語使用者を包摂する大学キャンパスをめざす講義の「社会的インパクト評価」による検討**  
伴野崇生・杉原由美（慶應義塾大学）
- 12:10 昼食休憩
- 13:15 口頭発表④  
**外国語学習における目標言語所属国への表象の形成と異文化教育—中国と日本の大学生の比較を中心に—**  
Zhang Xinyue・Yu Wenlong（京都大学）
- 13:55 口頭発表⑤  
**発音教育に対する日本語教師の意識構造—3名の教師のPAC分析インタビューから—**  
中川純子（慶應義塾大学）・服部真子（東京ひのき外語学院）・  
長松谷有紀（桜美林大学）・坂井菜緒（武蔵大学）
- 14:35 口頭発表⑥  
**留学生へのサポートを考える—介護職を目指すHへのインタビューを通して—**  
横田葉子（淑徳日本語学校）
- 15:15 休憩
- 15:30 口頭発表⑦  
**プログラム終了後も「Eタンドム学習」を継続したペアの特徴—日本とベトナムの学生のペアを一例として—**  
小西達也（名古屋大学日本法教育研究センター（ベトナム））
- 16:10 口頭発表⑧  
**つながりが生む、芸術としての教育と研究**  
**—Contemplative Theatre（コンTEMPLATIVE・シアター）の協働実践をふりかえる—**  
井本由紀（慶應義塾大学）・小木戸利光（Theatre for Peace and Conflict Resolution）・  
手塚千鶴子（元慶應大学日本語・日本文化教育センター）
- 16:50 ポスター発表／つながり∞プロジェクト  
ポスター発表①  
**学習者間の「つながり」—そのポテンシャルと課題—**  
小林裕美（沼津国際交流協会）  
ポスター発表②  
**留学生対象授業のクラス内外とのつながり—対話と気づきをねらいとして—**  
山森理恵（東海大学）  
ポスター発表③  
**英語を第二言語として習得する中学・高校生にみられる読み書き困難の特徴**  
澤井亜美・村山拓（東京学芸大学）  
ポスター発表④  
**言語教育の基盤たる態度としての「寛容」の内実**  
山田深雪（玉川大学）  
ポスター発表⑤  
**多様な市民性教育の担い手の教育観—自身の専門性をどのように語るかに注目して—**  
後藤賢次郎（山梨大学）
- 18:00 閉会
- 19:00 懇親会（参加費別途）

## 2019年8月25日（日）

- 9:00 教科教育×言語教育×人類学ワークショップ
- 12:00 ランチ交流会（参加費別途）
- 13:30 閉会

### 参加申込方法：2019年8月8日（木）日本時間23:59締切

言語文化教育研究学会ホームページ上の参加申込フォームからお願いいたします。 <http://alce.jp/meeting/06/>  
申込後、24時間以内に事務局から参加費の納入方法についてお知らせいたします。

お問い合わせ：  
[meeting@alce.jp](mailto:meeting@alce.jp)